

令和 8 年度(2026 年度) 第 1 回南区まちづくり懇話会 会議録(要旨)

- 1 日時 令和 8 年(2026 年) 6 月 4 日(木) 午前 10 時~午前 11 時 57 分
- 2 場所 雁回館 会議室
- 3 出席者 計 38 名(出席者名簿のとおり)
- 南区まちづくり懇話会委員 11 名
- 安部委員(会長)、高橋委員(副会長)、後藤委員、西村委員、西岡委員、
松枝委員、友清委員、中島委員、福田委員、中林委員、楠村委員
- 事務局 19 名
- 南区長、区民部長、保健福祉部長、南区土木センター所長、
南区管内まちづくりセンター所長(5 名)、福祉課長、保護課長、区民課長、
保健こども課長、総務企画課長、総務企画課副課長、飽田まちセン職員(1 名)
総務企画課職員(3 名)
- ※ワークショップ参加者 8 名(地域担当職員・南区内各課の若手職員)

4 内容

1. 開会
2. 区長挨拶
3. 職員紹介・第 7 期懇話会委員紹介
4. 議題

- ① R7 年度第 4 回南区まちづくり懇話会のフィードバック 資料 1
(事務局による説明)

【意見交換議事録】

(安部委員)

各区の Instagram について、南区と比べてフォロワー数などはどうなのかデータがあれば教えてほしい。

(事務局)

現時点では南区がトップ、続いて北区、東区などが続いている現状である。

- ② R8 年度まちづくり推進事業に関する説明 資料 2
(今年度すでに動きが的事业について事務局による説明)

No. 2 地域資源活用事業（総務企画課）

本事業では年間2回の体験型のイベント開催を予定している。第1回が6月20日（土）に決まっており、南区の特産品であるトマトの収穫・料理体験をしていただく「おいしい南区収穫体験」がある。対象は小中学生の親子25名程度。

第2回は、2月28日（日）にメロンの収穫体験等を考えている。

No. 12 地域緊急課題対応事業（総務企画課）

南区つながるまちづくり事業（仮称）はこの地域緊急課題対応事業中で実施する。

No. 20, 21 + α 南区 de 学ぼうさい（総務企画課）

議題①のフィードバック内で説明済。

No. 10 わがまち未来アイデアコンテスト（南部まちセン）

昨年度のまちづくり懇話会でのご意見を踏まえて、高校生部門の新設に向けて準備を進めている。管内にある熊本農業高校には承諾を頂いている。また、審査や副賞の提供にご協力をいただく企業についても、昨年度に引き続きお願いする予定で、新たにご協力いただける企業も出てきている。

No. 11 城南地域ブランド力向上推進事業（城南まちセン）

この事業は、城南町住民と行政により、地域が有するまちづくり資源の再発見と活用について、実行委員会形式で取り組んでいるもの。実行委員会の名称はチーム城南ワンダホー。

今年度は5月までに茶摘みフットパス事業を実施している。今後は、アフタヌーンティー事業や婚活イベント、サイクリングマップの作成などを実施予定。

No. 13 南区地域包括ケアシステム推進事業（福祉課）

これまで実施してきた内容の継続実施に加え、今年度は認知症について正しい知識の普及や啓発を図るイベントとして、「南区オレンジフェスタ」を7月20日（月祝）に開催予定。一部申込も開始している。イベントの詳細は、チラシでも広報している。

No. 16 eスポーツによる健康まちづくり事業（天明まちセン）

No. 17 モルック交流会事業（天明まちセン）

高齢者の健康づくりや子どもたちとの世代間交流などを目的としている事業。今年度の大きなイベントとしては、7月26日（日）に千原台高校のeスポーツ部の協力のもと、天明まちづくりセンターで大会と体験会を実施する。また、11月21日（土）に天明グラウンドでモルック大会を行う予定。他にも、年間を通してささえりあや町内自治会と連携し、様々な機会体験会を行い、地域コミュニティの活性化・担い手の発掘にもつなげていきたいと考えている。

（安部委員）

わがまち未来アイデアコンテストについて、昨年度は中学生からかなりレベルの高いアイデアが出ていた。高校生からもどのような意見が出るのか楽しみにしているところ。

彼らの提案がどれくらい政策に結びつけられるのかが大事だと思う。賞をもらって終わりではなく、自分たちが考えた未来のイメージが少しでも実現すると、その後輩たちもどんどん参加しようという風になると思う。

完全に実現は難しくても、何かヒントを得た場合などは、しっかりと子どもたちにフィードバックをして欲しい。

（中林委員）

No. 13 について、とてもいい取組だと思う。自分は中央区に住んでいるが、他区からも参加可能なのか。参加者の募集や広報はどのように行うのか。

（事務局）

参加に関しては、南区以外からも参加可能。広報については、南区ホームページや南区公式 Instagram などを用いて行う。また、作成しているチラシも各まちづくりセンターに配付する。

（高橋委員）

わがまち未来アイデアコンテストについて、おそらくアイデアを考えてくれた高校生は、それが実現する前に卒業してしまうと思う。予算化しなくてもすぐに行える事業や、学校の協力を得ながら後輩に受け継いでいくプロジェクトのような事業もある（育てていく）のもいいと思う。可能であれば学校との調整にも取り組んでもらいたいと思う。

（事務局）

今年度から高校生部門も新設するというので、おそらくタネのような粗削りなものが出てくるかと思っている。それをブラッシュアップして事業につなげることで、自分の意見が南区の取組に反映されたという子どもたちの喜びになってくると思う。現在、新都心プラザの中に、XossPoint という起業支援をする施設がある。それらを含めた経済部門との連携を視野に入れており、アイデアの実現に向けて準備をしているところである。

（中島久委員）

No.20、No.21 の防災事業について。地域密着型でいい事業だと思う。具体的にはどういうところとの連携を考えているのか教えてほしい。

（事務局）

地域の婦人会や食生活改善推進委員、防災士などと連携して、共同で炊き出しの実施や展示ブースなどを設けたいと思っている。そこに一般の方も参加してもらい、熊本地震を風化させない

ための取組をしたいと考えている。

（中島久委員）

熊本地震から十年になるので、本当にいろんな方が一緒に考える機会になるといいなと思っている。専門家の方にも入っていただきながら、そして子どもたちも一緒に関われるような何かがあるといいなと思っている。

（楠村委員）

No.16～18 に関連する健康まちづくりの取組について。よく飽田や天明まちづくりセンターが牽引されているような印象だが、これは南区全体で行われる取組もあるのか？

（事務局）

現地点では区全体で何かをやるということは計画をしていないが、校区単位で青少協などと協力して健康まちづくりに関する事業（多世代交流など）を行っている。まずは校区単位で異なる健康課題等について考えたり、皆さんの交流を図ったりして、健康について考えていただく機会をあの広げつつそれが区全体に広がっていったらいいと思っているところ。

（高橋委員）

No.20 の地域緊急課題対応事業について。先ほどの説明によると、この事業の中で地域と事業者が協働してまちづくりに取り組むためのマッチング事業を展開していくということで、お話をいただいた。先ほどの説明に加え、現時点で具体的に決まっている内容があれば、+αで教えていただきたい。

（事務局）

（南区つながるまちづくり事業（仮）について事務局による補足説明）

5. ワークショップ「南区まちづくりのタネ発掘会」

※4つのグループに分かれて、南区の今後のまちづくりの方向性などについて意見交換を行った。

<議事終了>